



恵泉女学園 「花と平和のミュージアム」ニュースレター 第4号



Photos by Keisen Wild Rose Garden

世田谷キャンパスでのミュージアムのモバイル展示について

中学高等学校教員 原嶋夕佳

「花と平和のミュージアムモバイル展@世田谷キャンパス」は校長室・職員室からフェロシップホール、高校生のHRがある校舎をつなぐ廊下スペースで展開しています。廊下といっても毎朝の礼拝や教室移動、職員室への来室などで、たくさんの生徒が行き来するメインストリート的な場所です。特に注目しなくても、なんとなく生徒の視界に入り、日常の風景の一つになってくれればよいと思っています。

ミュージアムのオープンから今まで、中高生の行事や季節に合わせて「福島菊次郎写真展」「満蒙開拓団資料展」「ボタニカルアート展」を行ってきました。

福島氏の写真展の時は、毎年3月に行う有志行事の「ヒロシマ平和の旅」参加者募集の頃であり、写真のメッセージ性もあって、たくさんのひとこと感想が寄せられました。ただ、今の中高生(ほとんどが21世紀生まれ)にとって昭和は近現代史の一部なので、被爆者や戦後、福島さんが撮影した当時の社会状況をどうやってわかりやすく説明するか、に頭を悩ませました。

また、満蒙開拓団の資料パネルを展示した時は壁一面がパネルでびっしり！という状態だったのを美術科の教員がパネルの並べ方をアドバイスして下さり、そのおかげで「見やすくなければ伝わらない」と、そのための工夫をより意識するようになりました。

モバイル展の良い点は、展示品やキャプションを少しずつマイナーチェンジできることです。一旦、展示しても情報を追加したり入替えたりできる、ある意味「好い加減」とも言えるでしょう。

最新の展示は「川崎・オスロ・被爆者キャンペーン」の紹介でした。高校の礼拝で上村英明先生(キャンペーン実行委員長)のお話を伺い、その前週に開催された平和学習講演会(中3から高3対象)でも投げかけられた「平和」について異なった視点から考える良い機会となりました。

福島氏の写真や満蒙開拓団の展示の際、やはり礼拝の場をお借りして生徒に動画を見せたことがあります。文字や静止画よりも情報量が多く、具体的にイメージが伝わるので、彼女たちの印象に残りやすかったようです。

生徒が日常生活で情報を得るのはYou tubeやネットニュースを始め、SNSからが圧倒的に多いのが現状です。展示(メッセージ)を伝わりやすくするとともに、絵画や写真、文字、図版などと真摯に向き合う中で心に響くものを感じることで、そこから考え始めることも大切にしながら、生徒たちの関心や感性に応えられるような展示を工夫していきたいと思えます。

多摩キャンパスのオープンガーデン

多摩キャンパスでは、2014年3月から、年に3回程度(現在は5月上旬、10月上旬、3月中旬の土曜日)オープンガーデンを開催しています。参加者数は、グループでのご参加が多く100名を超えた回もあり、これまでの平均は40名余りでした。多摩キャンパスの花壇では、原則として農薬と化学肥料は使っていません。タネから育てた苗を植え、少しずつ成長して花が咲く、その過程を学生は手入れをしながら観察することができます。オープンガーデンには、多摩市以外の市町村からもコミュニティーガーデンに携わっている方々など、グループで見学に来られる方も少なくありません。多くの方に学びの場として活用していただいているようです。

参加費は、大人(中学生以上)500円、キッズ300円。オーガニックカフェのお茶とケーキのセット料金が含まれています。お茶を飲みながら、キャンパスの花壇を愛でゆっくり過ごしていただくために、恵泉オーガニックカフェと連携しているのが、大きな特徴です。

参加者へは「本日の見どころmap」をお渡しし、花壇管理者による30分ほどのガーデンツアーを行っています。コミュニティー花壇の設計や花壇管理について授業や公開講座で学んだ学生が、お客様に説明する場合もあります。「学生達の努力が実っている花壇でした。次回も来てみたい。」「花の種類はもちろんのこと、手入れの際のお話が聞けた。」「梅雨と猛暑の苦勞など、学生さんの生の声も初々しくてよかったです。」などたいへん好評でした。

今後は、教育農場ツアーやキッズ向けツアー(草花クイズ)の充実も検討しています。オープンガーデンの開催が、地域の方、学外の皆さまに学びの場を提供し、大学が地域コミュニティーの一員として、少しでもお役に立てるよう願っています。

今回は、クリスマスローズが見頃の2018年3月3日(土)に開催します。草花が茂っていないこの季節は、花壇の骨格を見ることができます。この時季ならではの見どころがあるキャンパスへ、ぜひいらしてください。お待ちしております。(大学園芸教室 菊地牧恵)



恵泉蓼科ガーデン再整備のために

「花と平和のミュージアム」のサテライト施設でもある「恵泉蓼科ガーデン」に対し、恵泉フェロシップにより2017年度の新たな指定寄付のテーマ「恵泉蓼科ガーデン再整備のために」が設定されました。初年度の目標は200万円で、3年程度の継続が予定されています。

恵泉蓼科ガーデンは1985年の開設時は恵泉園芸センターの非公開の研究施設として出発しました。しかし現在は定期的にオープンガーデンも実施され、学園の教育活動での利用、研修目的の外部団体の受入れなどで夏場だけでも2000人以上の利用者が訪れます。大学の卒業演習で学生たちも訪れ、その豊かな自然のなかで自分と向き合う貴重なひとときを過ごします。

このように認知度と評価が高まる一方で、開設30周年を越えた蓼科ガーデンの自然環境の今後は、衰退かあるいはさらなる充実かの重大な分岐点に立っているという直視すべき現実もあります。建物のメンテナンスの必要性などの解決を必要とする現状もあります。

訪れてこそわかる恵泉蓼科ガーデンの魅力が、今後もずっと守られ続けるためにも募金のご協力をぜひおねがいたします。



Keisen Wild Rose Garden



2017年4~5月ごろ

「鉄の造形 武田美通 全30点作品展示」

5月27日のスプリングフェスティバルでは「鉄の造形 武田美通全30作品展示」の開催に先立ち、この作品群を保有する「武田美通 鉄の造形 戦死者からのメッセージを伝える会」と「花と平和のミュージアム」との保管協定締結式が行われ、同時に記者会見も開かれました。同日には武田作品のテーマである「戦争の理不尽さ」「平和への希求」をそれぞれ異なるかたちでアピールする講演会、映画会、ブラックライトシアターなどのイベントも行われました。その後の10日間にわたる展示期間中、約1,100人の方が会場を訪れました。



杉田明宏氏(大東文化大学准教授)による記念講演会は約120人が参加しました。



武田美通全作品保管協定締結式
左から 仲内節子氏(「広める会」事務局長)、中山洋司学園長(ミュージアム館長)、大橋邦夫氏(「広める会」会長)



作品に見入る来場者の方々。アンケートでも年齢層も様々な多数の方々から感想が寄せられました。

「花と平和のミュージアム」活動記録

2017年

4月
「角田葉子ポタニカルアート移動展」多摩市立グリーンライブセンター (G L C) にて本年度も展示の継続を決定 「テッポウユリ」展示
「角田葉子ポタニカルアート移動展@世田谷キャンパス」「ヤブツバキ」展示

5月
「角田葉子ポタニカルアート移動展」(G L C) 「ベニドウダン」展示

5月27日スプリングフェスティバル
武田美通氏の「鉄の造形」全30作品の保管協定締結式
「鉄の造形 武田美通展 全30作品展示」(5月27日~6月7日までの10日間)
記念講演会「時代を問う<鉄の造形>たち」
講師:杉田明宏氏 (大東文化大学 准教授)
映画上映会「戦ふ兵隊」(監督:亀井文夫 1938年)
ブラックライトシアター「むらさき花だいこん」上演
「河井道展示 旅と装い」
多摩キャンパス図書館入口展示ケース内に「花と平和のミュージアム」コーナーを開設
角田葉子氏ポタニカルアート「テッポウユリ」展示
武田美通氏 「鉄の造形」作品展示

6月
「角田葉子ポタニカルアート移動展」(G L C) 「タチバナ」展示

6月1日Keisen Wild Rose Garden 5周年記念講演会
「バラの12の不思議」(講師:野村和子氏 NPOバラ文化研究所理事)

7月「角田葉子ポタニカルアート移動展」(G L C) 「ノハナショウブ」展示

8月図書館入口展示ケース内に「貝千種」展示

多摩キャンパスの図書館入口展示ケース内に「花と平和のミュージアム」のコーナーが開設され、スプリングフェスティバルではここにも武田美通氏の鉄の造形作品が展示されました。(写真右)



スプリングフェスティバル「河井道展示」の様子。河井道ゆかりのトランク、服などが和室に展示されました。(写真左)

Takaramono Close up!

『両地秋(りょうちしゅう)』 全1巻
幸良弼撰 成田屋留次郎著 安政2(1855)年刊行

花と平和のミュージアム所蔵の『両地秋』は、江戸時代後期の変化朝顔26品の図譜です。右の写真のように一見してアサガオとは思われないような珍花、奇品がこのころ珍重され、しばしばその展示会が催され、出品されたものの図録も出版されました。刊行した江戸下谷の植木屋・成田屋留次郎はみずから「朝顔師」を名乗るほど、変化朝顔の品種改良と普及に情熱を注ぎ、『両地秋』のほか、『三都一朝』(さんといっちょう)『都鄙秋興』(とひしゅうきょう)を刊行、この三部作が世に出、朝顔の大流行の元をつくりだしたと言われていました。



え、これがおさがお?

「花と平和のミュージアム」ニュースレター 発行日 2017年12月1日 発行・編集 恵泉女学園 花と平和のミュージアム
多摩キャンパス窓口 恵泉女学園大学 研究機構事務局 〒206-8586 多摩市南野2-10-1 TEL.042-376-8332 URL:http://www.keisen.ac.jp
「花と平和のミュージアム」に対し、ぜひご意見、ご希望などお寄せください。これからの活動の貴重な糧とさせていただきます。恵泉に連なる全ての方々よりお待ちしております。
夢科ガーデンなどサテライトに関するご質問、ご要望等でも結構です。お問い合わせ先 E-mail:museum@keisen.ac.jp